

ねこ ねずみ
猫と鼠

わかし わかし てん かみさま せ かいじゅう どうぶつ こんど どうぶつ なか
 昔、昔、天の神様から、世界中の動物たちに、「今度、動物の中から
 じゅうにひきえら いちねんかん にんげん せ かい まも きき つ
 12匹選んで、1年間ずつ人間の世界を守らせることにした。先に着いた
 ものから じゅん き いちがつじゅうにち ところ あつ
 ものから順に決めていく。1月12日にわたしの所に集まれ。」という
 おふれが 出ました。これを 知った 動物たちは、「自分こそ一番早く行って、
 じゅんばん だいいち ひ く ま ねこ
 順番の第1になるぞ。」と、その日の来るのを待ちました。ところが、猫は
 へいぜい わす ひ なんにち わす みち
 平生から忘れっぽく、ついその日が何日か忘れてしまいました。ちょうど道で
 ねずみ であ さいわ ねずみ ねずみ われわれ
 鼠に出会い、これ幸いと、「鼠さん、鼠さん、あのおふれにあった、我々が
 あつ ひ き ねずみ
 集まるというあの日は、いつだったかね。」と、こう聞きました。鼠は、
 じぶん じゅんばん いちばん おも
 自分こそ順番の1番になろうと思っているものですから、「あれは
 いちがつじゅうさんにち いちにちおそ ひ ねこ おし ねこ
 1月13日です。」と、1日遅い日を猫に教えました。「まずこれで猫に
 ま かんが かんが いえ かね
 負けることはない」と、考え、考え、家へ帰っていきました。
 ねずみ いえ うしごや てんじょう なか かね うし
 鼠の家というのは牛小屋の天井の中にあったそうですが、帰ってみると、牛
 がもう しゅっぱつ ようい うし うし でか
 がもう出発の用意をしております。「牛さん、牛さん、もうお出掛けですか。」
 き うし こた あし
 と聞いてみると、牛の答えることに、「ええ、おれは足がのろいのでなあ、
 こんや ま あ き ねずみ
 今夜のうちにたたないと、間に合わないのじゃ。」これを聞くと、鼠はまた
 おも うし にもつ なか しの こ うし
 ずるいことを思いつき、そっと牛の荷物の中に忍び込んだのです。牛は

そんなことは少しも知らず、夜通し歩き続けて、神様の御殿にやってきました。

見ると、まだだれも来ておりません。「やれうれしや。これで1番になれた。」

と、ほっと大息をついて、神様の前に出ようとする、突然荷物の中から鼠が

飛び出しました。そして、「第1番は鼠でござる。」と、名乗りをあげました。

牛はどんなに落胆し、腹を立てたことでしょう。

しかし、それよりももっと腹を立てたのは猫であります。鼠に教えられた

13日、猫は息せき切って神様の所へ駆けつけました。見ると、だれも来て

おりません。「しめた。このおれ様が第1番。」そう思って、門の中へ駆け込も

うとすると、神様の御殿の門番にとがめられました。そして、「順番を

お決めになる日は昨日だった。順番は、鼠が1番、それから、牛、虎、兎、

龍、蛇、馬、羊、猿、鶏、犬、猪の順に決まった。寝ぼけていないで、

顔を洗いなさい。」と言われ、初めて、猫は鼠にだまされたと知ったのです。

そして、「この憎い鼠のやつ!」と、にわかには牙を磨き、爪を研ぎ始め、

それ以来、鼠さえ見れば、飛びかかるようになりました。また、つばを

つけては、いつも顔を洗うのは、神様の御殿の門番に、「寝ぼけていないで、

よく顔を洗いなさい。」と言われたからだそうなのです。

ねことねずみ

むかし、むかし、てんのかみさまから、せかいじゅうのどうぶつたちに、
「こんど、どうぶつのなかから じゅうにひきえらんで、いちねんかんずつ
にんげんのせかいをまもらせることにした。さきについたものからじゅうに
きめていく。いちがつじゅうににちにわたしのところにあつまれ。」という
おふれがでました。これをしったどうぶつたちは、「じぶんこそ
いちばんはやくいって、じゅんばんのだいいちになるぞ。」と、
そのひのくるのをまちました。ところが、ねこはへいぜいからわすれっぽく、
ついそのひがなんにちか わすれてしまいました。ちょうどみちで
ねずみにであい、これさいわいと、「ねずみさん、ねずみさん、
あのおふれにあった、われわれがあつまるというあのひは、
いつだったかね。」と、こうききました。ねずみは、じぶんこそ
じゅんばんのいちばんになろうとおもっているものですから、
「あれはいちがつじゅうさんにちです。」と、いちにちおそいひを
ねこにおしえました。「まずこれで、ねこにまけることはない」と、
かんがえ、かんがえ、いえへかえっていきました。

ねずみのいえというのはうしごやのてんじょうのなかにあったそうですが、
かえってみると、うしがもうしゅっぱつのようないをしております。

「うしさん、うしさん、もうおでかけですか。」ときいてみると、
うしのこたえることに、「ええ、おれは あしがのろいのでなあ、

こんやのうちにたたないと、まにあわないのじゃ。」これをきくと、

ねずみはまたずるいことをおもいつき、そっとうしのにもつのなかに

しのびこんだのです。うしはそんなことはすこしもしらず、よどおし

あるきつづけて、かみさまのごてんにやってきました。みると、まだだれも

きておりません。「やれうれしや。これでいちばんになれた。」と、

ほっとおおいきをついて、かみさまのまえにでようとすると、とつぜん

にもつのなかからねずみがとびだしました。そして、「だいいちばんは

ねずみでござる。」と、なのりをあげました。うしは どんなにらくたんし、

はらをたてたことでしょう。

しかし、それよりももっとはらをたてたのは ねこであります。

ねずみにおしえられたじゅうさんにち、ねこは いきせききって

かみさまのところへ かけつけました。みると、だれもきておりません。

「しめた。このおれさまが だいいちばん。」そうおもって、もんのなかへ
かけこもうとすると、かみさまのごてんのもんばんに とがめられました。

そして、「じゅんばんをおきめになるひは きのうだった。じゅんばんは、
ねずみがいちばん、それから、うし、とら、うさぎ、りゅう、へび、うま、
ひつじ、さる、にわとり、いぬ、いのししのじゅんにきまった。

ねぼけていないで、かおをあらいなさい。」といわれ、はじめて、
ねこは ねずみにだまされたと したのです。そして、「このにくい
ねずみのやつ！」と、にわかにはげをみがき、つめをとぎはじめ、
それいらい、ねずみさえみれば、とびかかるようになりました。また、
つばをつけては、いつもかおをあらうのは、かみさまのごてんの
もんばんに、「ねぼけていないで、よくかおをあらいなさい。」と
いわれたからだそうなのです。

貓與鼠

很久、很久以前，天神對世界裡的動物作了以下的告示：「這次我會在動物裡挑選 1 2 隻，逐年去守護人類世界。我會以他們到達的先後次序來作決定。1 月 1 2 日到我的宮殿來吧。」知道到了此事的動物都心想：「我一定要最早到達，成爲第一！」，並一直等待那天的到來。可是，貓兒平日一向善忘，不知不覺間把那日期給忘記了。剛好牠在路上碰見了小老鼠，心想，這回可真幸運！於是牠就問小老鼠：「老鼠先生、老鼠先生，你還記得在那告示裡，我們集合的日期嗎？」小老鼠因爲想成爲第一名，於是就說：「那是 1 月 1 3 日。」，把日期說遲了一天給貓兒聽。「這樣一來我就不會輸給貓兒了吧！」牠一邊這麼想，一邊回家了。

小老鼠的家聽說是在牛欄的天井裡。牠回家後，牛先生就已經準備出發了。「牛先生、牛先生，你要出發了嗎？」牛先生說：「是啊，因爲我走得慢，如果今晚不出發的話，就趕不及了呀。」聽到牛先生這麼說，小老鼠又再想出了鬼主意，牠靜悄悄的躲進了牛先生的行李內。牛先生一點也不知道此事，熬夜走路到達了天神的宮殿。牠環顧四周，誰也還沒來到。心想：「真好呀，這麼我就是第一名了。」牠呼了一口大氣，正想走到天神的跟前時，小老鼠突然從行李中跳了出來。然後說：「第一名是小老鼠！」，大聲地報上了自己的姓名。牛先生可是如何地失望和忿怒啊。

可是，要更忿怒的可算是貓兒了。在老鼠告訴牠的 1 3 日，貓兒喘著氣跑到天神的宮殿裡。牠環顧四周，誰也還沒來到。「好了！本少爺是第一名了！」牠如此想，正想跑進門裡去時，就被天神宮殿的守衛給攔住了。然後，守衛告訴牠：「決定次序的日期是昨天。排名是老鼠第一，然後是牛、虎、兔、龍、蛇、馬、羊、猴、雞、狗、豬。你不要再懶睡了，快去洗個臉吧！」這時，貓兒才知道被老鼠欺騙了。然後牠說：「老鼠這討厭的傢伙！」，並立刻開始把爪牙磨尖。從此以後，只要牠見到老鼠，就會撲上前去。另外，牠常用唾液洗臉，聽說是因爲牠曾被天神宮殿的守衛責備說：「你不要再懶睡了，快去洗個臉吧！」的原因呢！